

安全データシート イージーガーグルS

1. 製品（物質または混合物）および会社情報

GHSに関連する成品名：イージーガーグルS

会社名	大洋製薬株式会社
住 所	〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目14-16
担当部門	お客様相談室
緊急時の電話番号	03-3818-4328
推奨用途と使用上の制限	第3類医薬品（ポビドンヨードのうがい薬）

2. 危険有害性の要約

GHS分類

分類実施日

健康に対する有害性

政府向けGHS分類ガイダンスによる（H27年）

皮膚腐食性/刺激性 区分2

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分1

発がん性 区分1A

生殖毒性 区分1A

特定標的臓器毒性（単回暴露）

区分1（甲状腺、中枢神経系、血液系）

区分3（気道刺激性、麻酔作用）

特定標的臓器特性（反復暴露）

区分1（皮膚、甲状腺、中枢神経系、呼吸器）

環境影響情報

水生環境有害性（急性） 区分3

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険有害性情報

危険

H315 皮膚刺激

H318 重篤な眼の損傷

H350 飲み込んだ場合、発がんのおそれ

H360 飲み込んだ場合、生殖能または胎児への悪影響のおそれ

H370 飲み込んだ場合、甲状腺、中枢神経系、血液系の障害

H335 呼吸器への刺激のおそれ

H336 眠気またはめまいのおそれ

H372 長期にわたるまたは反復暴露による皮膚、甲状腺、中枢神経系、呼吸器の障害

H402 水生生物に有害

注意書き

安全対策

P102 小児の手の届かないところに置くこと。

応急措置	P202 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
	P101 医学的な助言が必要な時には、製品容器やラベルを持って行くこと。
	P264 取扱い後は手をよく洗うこと。
	P280 保護眼鏡/保護面を着用すること。
	P260 粉じん煙/ガス/ミスト/蒸気スプレーを吸入しないこと。
	P270 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
	P273 環境への放出を避けること。
	P302+P352 皮膚についた場合大量の水で洗うこと。
	P305+P351+P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。
	次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
保 管 廃 棄	その後も洗浄を続けること。
	P310 直ちに眼科医に連絡すること。
	P308+P313 暴露または暴露の懸念がある場合、医師の診察/手当を受けること。
	P304+P340 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
	P312 気分が悪い時は医師に連絡すること。
直射日光を避け、湿気の少ない涼しい所に密栓して保管すること。	
廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。	

3. 組成および成分情報（物質または混合物）

混合物（液剤）※1

有効成分：ポビドンヨード

添加物：ヨウ化 K（0.3%未満）、ℓ-メントール、エタノール（31%未満）、サッカリンナトリウム水和物

化学的特定名	ポビドンヨード	エタノール	ヨウ化 K	ℓ-メントール
日本語名	1-ビニル-2-ピロリドン重合物と二ヨウ素の化合物	エチルアルコール	ヨウ化カリウム	(1R, 2S, 5R)-2-イソプロピル-5-メチルシクロヘキサノール
英語名	Compound of (polymer of 1-vinyl-2-pyrrolidone) and diiodine	Ethanol	Potassium iodide	ℓ-menthol
分子式	(C ₆ H ₉ NO) _x · x I ₂	C ₂ H ₆ O	I K	C ₁₀ H ₂₀ O
C A S 番号	25655-41-8	64-17-5	7681-11-0	2216-51-5
化審法官法整理番号	(9)-1363	(2)-202	(1)-439	(3)-2333
安全衛生法	*****	別表第9の61	別表第9の606	*****
国連番号	*****	1170	*****	*****
E C 番号	*****	200-578-6	231-659-4	218-690-9

化学的特定名	サッカリンナトリウム 水和物
日本語名	サッカリンナトリウム 水和物
英語名	Saccharin sodium hydrate
分子式	C ₇ H ₄ NNaO ₃ S・2H ₂ O
C A S 番号	6155-57-3
化審法官法整理番号	*****
安全衛生法	*****
国連番号	*****
E C 番号	*****

※ 1 有効成分 1 成分と添加物 4 成分について情報を記載した。

有効成分含有量

成 分 名	100mL 中の含有量	作 用 効 果
ポビドンヨード	7 g (有効ヨウ素 0. 7 g)	のどの殺菌・消毒・口臭除去に

4. 応急措置

皮膚についた場合：	大量の水で洗うこと。
眼に入った場合：	水で数分間注意して洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
暴露またはばく露の：	直ちに眼科医に連絡すること。
懸念がある場合	医師の診察/手当を受けること。
吸入した場合：	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
	気分が悪い時は医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤：	情報なし
使ってはならない消火剤：	情報なし
本品による危険性：	情報なし
特有の消化方法：	最も適切な消火器を用いること。
消火を行なう者の保護：	適切な空気呼吸器、保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

緊急措置：	情報なし
保護具および緊急時措置：	(8. 暴露防止および人に対する保護措置)を参照する。
環境に対する予防措置：	漏洩物を環境中に放出してはならない。
封じ込めおよび浄化方法と機材：	漏れた液やこぼれた液を蓋つきの容器にできる限り集める。
	残留液を、砂または不活性吸収剤に吸収させる。
	地域規則に従って、保管・処理する。
二次災害の防止策：	排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱いおよび保管上の注意

安全な取扱いのための予防措置：P102 小児の手の届かないところに置くこと。
P202 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
P101 医学的な助言が必要な時には、製品容器やラベルを持って行くこと。
P264 取扱い後は手をよく洗うこと。
P280 保護眼鏡/保護面を着用すること。
P260 粉じん煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
P270 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
P273 環境への放出を避けること。

混触危険物質等安全な保管場所：直射日光を避け、湿気の少ない涼しい所に密栓して保管すること。

8. 暴露防止および人に対する保護措置

職業暴露限界値、生物学的限界値等の管理指標： 未設定

設備対策： 非該当

保護具：

呼吸用保護具 非該当

眼の保護具 非該当

皮膚および身体の保護具 非該当

衛生対策 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的および化学的性質

外観（物理的状态、色など）

黒褐色澄明の液

臭い

特異な芳香

pH

データなし

沸点

データなし

引火点

データなし

自然発火温度

データなし

粘度（粘性率）

データなし

10. 安定性および反応性

反応性： 法規制に従った保管条件のもとで保管する場合、本品は安定である。
化学的安定性： 通常の取扱い条件のもとで本品は安定である。
危険有害反応の可能性： 情報なし
避けるべき条件： 高温多湿、直射日光への暴露
混触危険物質： 情報なし
危険有害性のある分解生成物： 情報なし

1 1 . 有害性情報※¹

急性毒性（経口） 分類できない

エタノール：区分外

ラットの LD₅₀ 値＝6,200 mg/kg、11,500 mg/kg、17,800 mg/kg、13,700 mg/kg（PATTY（6th, 2012））、15,010 mg/kg、7,000-11,000 mg/kg（SIDS（2005））はすべて区分外に該当している。

ヨウ化カリウム：分類できない

データ不足のため分類できない。

0-メントール：区分外

ラットの LD₅₀ 値として、2,615 mg/kg、2,426mg/kg の報告（SIDS（2004））に基づき、区分外（国連分類基準の区分 5）とした。

急性毒性（経皮） 分類できない

エタノール：区分外

ウサギの LDLo＝20,000 mg/kg（SIDS（2005））に基づき区分外とした。

ヨウ化カリウム：分類できない

データ不足のため分類できない。

0-メントール：分類できない

データ不足のため分類できない。

急性毒性（吸入：蒸気） 分類できない

エタノール：区分外

ラットの LC₅₀＝63,000 ppmV（DFGOT vol.12（1999））、66,280 ppmV（124.7 mg/L）（SIDS（2005））「のいずれも区分外に該当する。なお、被験物質の濃度は飽和蒸気圧濃度、78,026 ppmV（147.1 mg/L）の 90% [70,223 ppmV（132.4 mg/L）]より低い値であることから、ppmV を単位とする基準値を用いた。

ヨウ化カリウム：分類できない

データ不足のため分類できない。

0-メントール：分類できない

データ不足のため分類できない。

皮膚腐食性/刺激性 区分 2

エタノール：区分外

ウサギに 4 時間ばく露した試験（OECD TG 404）において、適用 1 および 24 時間後の紅斑の平均スコアが 1.0、その他の時点では紅斑及び浮腫の平均スコアは全て 0.0 であり、「刺激性なし」の評価 SIDS（2005）に基づき、区分外とした。

ヨウ化カリウム：分類できない

データ不足のため分類できない。

0-メントール：区分 2

未希釈の本物質をウサギに適用した試験（OECD TG 404 準拠）で、紅斑と浮腫の平均スコアがそれぞれ 3.0、2.9 で、適用後 14 日で回復がみられたとの報告があることから（SIDS（2004））、区分 2 とした。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 **区分 1**

(本製剤は pH 1 ～ 3 を示すため、重篤な眼損傷を起こす (眼区分 1) と推定する。)

エタノール：区分 2B

ウサギを用いた 2 つの Draize 試験 (OECD TG 405) において、中等度の刺激性と評価されている (SIDS (2005))。このうち、1 つの試験では、所見として角膜混濁、虹彩炎、結膜発赤、結膜浮腫がみられ、第 1 日の平均スコアが角膜混濁で 1 以上、結膜発赤で 2 以上であり、かつほとんどの所見が 7 日以内に回復した (ECETOC TR 48 (2) (1998)) ことから、区分 2B に分類した。

ヨウ化カリウム：区分 2B

ウサギを用いた試験において、本物質 (3%溶液) を角膜に適用したところわずかな刺激性がみられ、刺激の程度は最大 100 に対し 17 であったとの報告がある (HSDB (Access on July 2015))。以上の結果から区分 2B とした。なお、長期連用による副作用として結膜炎、眼瞼浮腫などが記載されている (医療用医薬品集 2016 (2015))。

l-メントール：区分 2B

本物質の 29%と 64%フタル酸ジエチル溶液による 2 つの眼刺激性試験 (OECD TG 405) において、軽度の刺激性と評価されている (SIDS (2004))。本物質の 29%と 64%溶液の平均スコアは 29%溶液で角膜混濁 0.2、結膜発赤 0.6、結膜浮腫 0.1、64%溶液で角膜混濁 1.0、結膜発赤 2.0、結膜浮腫 0.6 であり、64%溶液で全ての所見が 7 日以内に回復した。また、SIDS (2004) には未希釈の液体のメントール (異性体の種類不明) において軽度の刺激性を示したとの報告がある。以上の結果に基づき、区分 2B とした。

呼吸器感作性 **分類できない**

エタノール：分類できない

データ不足のため分類できない。なお、アルコールによる気管支喘息症状の誘発は血中アルデヒド濃度の増加と関係があると考えられている。一方、軽度の喘息患者 2 人がエタノールの吸入誘発試験で重度の気管支収縮を起こしたことが報告されている (DFGOT vol.12 vol.12 (1999)) が、その反応がアレルギー由来であることを示すものではないとも述べられている (DFGOT vol.12 vol.12 (1999))。

ヨウ化カリウム：分類できない

データ不足のため分類できない。なお、本物質の長期連用による副作用として喘息発作が記載されている (医療用医薬品集 2016 (2015))。

l-メントール：分類できない

データ不足のため分類できない。

皮膚感作性 **分類できない**

エタノール：分類できない

ヒトでは、アルコールに対するアレルギー反応による接触皮膚炎等の症例報告がある (DFGOT vol.12 vol.12 (1999)) との記述があるが、「ヒトでは他の一級または二級アルコールとの交叉反応性がみられる場合があること、動物試験で有意の皮膚感作性はみられないことにより、エタノールに皮膚感作性ありとする十分なデータがない」 (SIDS (2005)、DFGOT vol.12 vol.12 (1999)) の記述に基づきデータ不足のため分類できないとした。

ヨウ化カリウム：分類できない

データ不足のため分類できない。

l-メントール：区分外

SIDS (2004) には、ビューラー試験、LLNA 試験、改変ドレイズ試験の結果が記載されている。ビューラー試験 (OECD TG 406 準拠) では 10 匹の全ての動物に対し陰性である。1 群あたり 6-8 匹の動物を用いた LLNA 試験では陰性の結果が得られている。改変ドレイズ試験では再惹起、感作のみ陽性で不明瞭な結果としている。SIDS (2004) ではこれらの結果に基づき、本物質は感作性なしと評価していることから区分外とした。

生殖細胞変異原性 分類できない

エタノール：分類できない

in vivo、in vitro の陰性結果あるいは陰性評価がされており、分類ガイダンスの改訂により「区分外」が選択できないため、「分類できない」とした。

ヨウ化カリウム：分類できない

データ不足のため分類できない。

0-メントール：分類できない

ガイダンスの改訂により「区分外」が選択できなくなったため、「分類できない」とした。すなわち、in vivo では、マウスの小核試験で陰性である（SIDS（2004））。in vitro では、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験、マウスリンフォーマ試験でいずれも陰性である（SIDS（2004））。

発がん性 区分 1 A

エタノール：区分 1 A

エタノールは ACGIH で A3 に分類されている（ACGIH（7th, 2012））。また、IARC（2010）では、アルコール飲料の発がん性について多くの疫学データから十分な証拠があることなどから、アルコール飲料に含まれるエタノールの摂取により、エタノール及び主代謝物であるアセトアルデヒドが食道などに悪性腫瘍を誘発することが明らかにされているため、区分 1A に分類する。

ヨウ化カリウム：分類できない

ヨウ素摂取と甲状腺がん発症との関連性については、複数の大規模疫学研究の結果、特にヨウ素欠乏の集団、風土病的な甲状腺腫多発地域など特定の集団ではヨウ素摂取量の増加が甲状腺腫瘍のリスク要因となるおそれのあることが示唆されたが、必ずしも全ての研究で発がんリスクの増加がみられたわけではなく、ヨウ素摂取と甲状腺腫瘍との関連性については、依然不明である（CICAD 72（2009））との記述、またヨウ素欠乏土壌に居住する住民の集団で、ヨウ素摂取の増加後に甲状腺がん、特に甲状腺乳頭がんの発生率の増加の報告もある（CICAD 72（2009）、ATSDR（2004））。

0-メントール：分類できない

国際機関の発がん性分類はない。なお、本物質の異性体である D/L 体（CAS 89-78-1）について、マウス及びラットの 2 年間発がん性試験が 2 件報告されいずれも陰性である（SIDS（2004））。

生殖毒性 区分 1 A

エタノール：区分 1 A

ヒトでは出生前にエタノール摂取すると新生児に胎児性アルコール症候群と称される先天性の奇形を生じることが知られている。奇形には小頭症、短い眼瞼裂、関節、四肢及び心臓の異常、発達期における行動及び認知機能障害が含まれる（PATY（6th, 2012））。これらはヒトに対するエタノールの生殖毒性を示す確かな証拠と考えられるため、区分 1A とした。

ヨウ化カリウム：区分 1 B

ヒトでヨウ素の過剰摂取により、甲状腺機能障害をきたし、二次的影響として月経異常など性機能への影響が生じる可能性があること、吸収されたヨウ素が母乳中に排泄されるとの知見があること、母乳を介して新生児に移行したヨウ素が乳幼児の発達障害を及ぼす可能性が考えられる。ヨウ化物への過剰ばく露による生殖毒性のヒトでの証拠は十分とは言えず、本項は区分 1B として、授乳影響の区分を追加した。

0-メントール：分類できない

データ不足のため分類できない。なお、ラット、マウス、ウサギ、ハムスターを用いた発生毒性試験において、母動物毒性及び発生毒性はみられていない（SIDS（2004））。生殖能に関するデータは得られていない。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

区分 1（甲状腺、中枢神経系、血液系）

区分 3（気道刺激性、麻酔作用）

エタノール：区分 3（気道刺激性、麻酔作用）

ヒトの吸入ばく露により眼及び鼻への刺激症状が報告されている（PATTY（6th, 2012））。血中エタノール濃度の上昇に伴い、軽度の中毒（筋協調運動低下、気分、性格、行動の変化から中等度の中毒（視覚障害、感覚麻痺、反応時間遅延、言語障害）、さらに重度の中毒症状（嘔吐、嗜眠、低体温、低血糖、呼吸抑制など）を生じる。さらに、呼吸または循環不全により、あるいは咽頭反射が欠如した場合には胃内容物吸引の結果として死に至ると記述されている（PATTY（6th, 2012））。ヒトに加えて実験動物でも中枢神経系の抑制症状がみられている（SIDS（2005））。以上より、区分 3（気道刺激性、麻酔作用）とした。

ヨウ化カリウム：区分 1（甲状腺）

ヒト事例では、New York City Medical Examiners Office（USA）の報告によると、ヨードチンキ（ヨウ素をエタノールに溶かしたもので、添加物としてヨウ化カリウム（KI）が含まれる）の経口摂取による 18 例の自殺例があり、そのヨードチンキの濃度は、1,200-9,500 mg（17-120 mg/kg 体重）で、摂取後 48 時間以内に死亡が認められている他、本物質溶液（ヨードとして 15 g）で自殺を試みたが回復したとの報告もある（CICAD 72（2009）、ATSDR（2004）、PATTY（6th, 2012））。また、ヨードの急性過剰摂取は、一過性の甲状腺ホルモンの産生を低下させるとの記載がある（ATSDR（2004））。

ヨウ化化合物による症状として、致死量あるいは致死量近傍の毒性症状は、腹部痙攣、出血性下痢、消化管潰瘍、顔・首の浮腫、肺炎、溶血性貧血、代謝性アシドーシス、肝臓の脂肪変性、腎不全であるとの記載がある（CICAD 72（2009））。（これらについては、詳細情報が記載されていないため、採用しなかった。）以上より、本物質は甲状腺への影響があり、区分 1（甲状腺）とした。

新たな情報を追加し旧分類を見直した。

0-メントール：区分 3（麻酔作用）

ラットの経口投与（1,000-4,000 mg/kg）において麻酔作用がみられたとの記載（SIDS（2004））から区分 3（麻酔作用）とした。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

区分 1（皮膚、甲状腺、全身毒性、中枢神経系、呼吸器）

エタノール：分類できない

データ不足のため分類できない。

ヨウ化カリウム：区分 1（皮膚、甲状腺、全身毒性）

薬物治療に本物質を経口摂取した例でヨウ素疹がみられている。ヨウ素疹は、ざ瘡様膿疱を特徴とし、膿疱が合体した増殖性の結節病変が顔面、四肢、体幹などにみられた複数の事例があり、また、薬物治療に本物質を用いた例で発熱がみられた事例が報告されている。また、本物質の過剰な経口ばく露により、甲状腺機能低下がみられ、一方、甲状腺機能亢進を示す事例も報告されている（ATSDR（2004）、CICAD 72（2009））。このほか、長期連用による重大な副作用として、ヨウ素中毒として皮膚や甲状腺の病変のほかに、喉頭炎、気管支炎、声門浮腫、喘息発作、唾液腺浮腫、耳下腺炎、胃炎、ヨウ素悪液質として、全身衰弱、心悸亢進、抑うつ、不眠、神経過敏などが記載されている（医療用医薬品集 2016（2015））。以上のように、皮膚、甲状腺のほか標的臓器の特定が困難な全身性の諸症状がみられた。

したがって、区分 1（皮膚、甲状腺、全身毒性）とした。

0-メントール：分類できない

SIDS（2004）にラットによる経口投与 2 試験、吸入ばく露 1 試験の記述があるが、いずれも分類に用いるには適切なデータではなく、データ不足のため分類できないとした。

※ 1 GHS が適用される 3 成分について情報を記載した。

1 2 . 環境影響情報※ 1

水生環境有害性（急性） 区分 3

エタノール：区分外

藻類（クロレラ）の 96 時間 EC50 = 1000 mg/L (SIDS, 2005)、甲殻類（オオミジンコ）の 48 時間 EC50=5463 mg/L (ECETOC TR 91 2003)、魚類（ニジマス）の 96 時間 LC50 = 11200 ppm (SIDS, 2005) より、藻類、甲殻類及び魚類において 100 mg/L で急性毒性が報告されていないことから、区分外とした。

ヨウ化カリウム：分類できない

適切なデータが得られておらず分類できない。

0-メントール：区分 3

魚類（ゼブラフィッシュ）の 96 時間 LC50=15.6 mg/L である (SIDS, 2004) ことから、区分 3 とした。

水生環境有害性（長期間） 分類できない

エタノール：区分外

慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり (BOD による分解度：89% (既存点検, 1993))

甲殻類（ニセネコゼミジンコ属の一種）の 10 日間 NOEC = 9.6 mg/L (SIDS, 2005) であることから、区分外となる。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、藻類、魚類ともに急性毒性が区分外相当であり、難水溶性ではない (miscible, ICSC, 2000) ことから、区分外となる。以上の結果から、区分外とした。

ヨウ化カリウム：分類できない

適切なデータが得られておらず分類できない。

0-メントール：区分外

慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり (BOD による分解度：79-92% (SIDS, 2004))、藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata) の 96 時間 NOEC = 9.65 mg/L (SIDS, 2004) であることから、区分外となる。

慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、魚類（ゼブラフィッシュ）の 96 時間 LC50 = 15.6 mg/L (SIDS, 2004) であるが、急速分解性があり (BOD による分解度：79-92% (SIDS, 2004))、生物蓄積性が低いと推定される (log Kow= 3.3 (HSDB, 2013)) ことから、区分外となる。以上の結果を比較し、区分外とした。

オゾン層への有害性 分類できない

エタノール：分類できない

当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていないため。

ヨウ化カリウム：分類できない

データなし

0-メントール：分類できない

当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていないため。

※ 1 GHS が適用される 3 成分について情報を記載した。

1 3 . 廃棄上の注意

残余廃棄物：廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、又は地方公共団体が廃棄物処理を行なっている場合はそこに委託して処理をする。

汚 染 容 器：容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行なう。空容器を廃棄する場合は内容物を完全に除去すること。

1 4. 輸送上の注意

国際規制	海上輸送規制情報	非該当	海洋汚染物質	非該当
	航空輸送規制情報	非該当		
国内規制	陸上輸送規制情報	非該当		
	海上輸送規制情報	非該当	海洋汚染物質	非該当
	航空輸送規制情報	非該当		

特別の安全対策及び条件

運搬に際しては容器に損傷のないことを確認し、転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。特に高温多湿の場所、及び直射日光に曝露される場所に長時間放置しないこと。

1 5. 適用法令

医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律

1 6. その他の情報

参考文献 各データ毎に記載した。

参考情報

1)	経済産業省ウェブサイト 化学物質関連データベース https://www.meti.go.jp/policy/chemical_management/db.html
2)	N I T E 化学物質総合情報提供システム 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 N I T E - C H R I P (NITE Chemical Risk Information Platform) https://www.nite.go.jp/chem/chrip/chrip_search/systemTop
3)	厚生労働省 化学品の分類および表示に関する世界調和システム (G H S) 改訂 7 版 仮訳 https://www.mhlw.go.jp/bunya/roudoukijun/anzenisei55/index.html
4)	厚生労働省 職場のあんぜんサイト G H S とは https://anzeninfo.mhlw.go.jp/user/anzen/kag/ankg_ghs.htm
5)	化管法 (JIS77253) 経済産業省ホームページ 化管法 S D S 標準的な書式 https://www.meti.go.jp/policy/chemical_management/law/msds/msds62.html

記載内容お取扱いの注意

この資料は 2017 年に国際連合が作成した「化学品の分類および表示に関する世界調和システム (G H S) 第 7 版」に準拠して作成しておりますが、全ての情報を網羅しているものではなく、又、記載しております注意事項は当該製品の安全な取扱いを提供することを目的としたものであり、安全性等の保証をなすものではありません。